



新十津川望郷会

会報 第十七号

望郷会報第十七号の
発刊にあたり



平成二十五年度を終えて

財源は、会員の年会費及び寄付金を積み立てており、会員の皆様のご協力により、滞りなく事業を終えることができました。この場を通じて、関係者各位に厚く御礼申し上げます。

新十津川望郷会会長
高 棚 政 義

初夏の候、会員の皆様には、ますますご健勝のこととお喜び申しあげます。また、日頃望郷会の運営にご協力いただき、お礼申し上げます。

私事ではありますが、事業初年度に小中学校を訪問し、児童が本手に取りながら笑顔で迎えてくれたことが良き思い出として大変印象に残っています。

また、完成した徳富ダムを見学させていただきました。今後、ダムをいかした益々の観光の発展を願っております。

最後になりますが、この会報が会員皆様の心の糧として、また皆様相互の絆を深める一助となれば幸いと存ずる次第です。



新十津川町長
植 田 满

初夏の候、木々や水田など緑鮮やかな季節となり、北の大地、北海道で一番爽やかな季節を迎えました。日頃より郷土新十津川にご支援を賜り心から厚くお礼申し上げます。

また、完成した徳富ダムを見学させていただきました。今後、ダムをいかした益々の観光の発展を願っております。

昨年を顧みますと、本町の基幹産業である水稻は、生産者や関係団体の不断の努力により三年連続の豊作となりました。しかしながら、環太平洋経済連携協定（TPP）交渉が進められ、さらには、農業政策の改革（米の生産調整の廃止等）が進められるなど、農業を取り巻く状況は厳しく、また、昨年の九月に人口も七千人を切りました。これは、明治三十九年以来のこととなります。

本会では、町の諸計画を調べて検討した結果、「小中学校の図書館整備」について、平成二十二年から四か年計画で助成を行つたところでございます。

一方で、今年二月十四日には、第五代新十津川町長小畠莊一様がご逝去されるという悲しい出来事もございました。年齢的にもお若く、突然の訃報に接し、多くの方が驚きを禁じえませんでした。市町村合併や国の三位一体の行政改革が求められる中、安定した行政運営に多大なご尽力をいたしました。しかし、小さな町でも、目標を

持つて取り組めば、必ず光が見えてくるものと考えております。その証として、昨年の中体連卓球大会で、日々地道に練習に励んでいる女子選手二名が、同種目としては新十津川中学校開校以来初となる全国出場という快挙を成し遂げ、町民に勇気を与えてくれました。

また、昨年の開町記念式の日に望郷会の皆様に見学いただきました。徳富ダムが、平成十四年から十年余の歳月をかけ無事完成し、今年度から供用開始となりました。かんがい水の安定確保と利水、治水効果と観光の振興にも大いに期待されるところです。

一方で、今年二月十四日には、第五代新十津川町長小畠莊一様がご逝去されるという悲しい出来事もございました。年齢的にもお若く、突然の訃報に接し、多くの方が驚きを禁じえませんでした。市町村合併や国の三位一体の行政改革が求められる中、安定した行政運営に多大なご尽力をいたしました。さて、今年は、融雪も順調に進み、桜の開花は例年より早く、ま

た、先月末から今月初めにかけては、真夏日を観測するなど好天が続いていることから、四年連続の出来秋を期待するところであります。

町政においては、本年から人口減少を食い止めるべく、町内に住宅を取得した方に助成金を交付する「定住促進事業」や本町出身者や本町とゆかりのある方などの交流の促進と、特産品のPRを推進するための「ふるさと応援寄附金推進事業」に取り組んでおります。

また、道民球団の北海道日本ハムファイターズの金子誠選手、岡大海選手に一年間、本町の応援大使として就任いただきました。お二人の活躍により新十津川の名が少しでも広がることを期待しております。

会員の皆様には、開町百二十年を記念して、平成二十二年から四年間、小中学校へ図書室用の机や椅子、百科事典などの図書をご寄贈いただきました。

開拓以来、教育を重んじてきました本町の町史に叶つたものであり、大変有り難く、心より感謝申し上げます。

明治二十三年に開拓の鉢がこの地でおろされて以来、先人諸賢の筆舌に尽くしがたい辛苦により、この素晴らしい沃野が拓かれました。

この大地を守り、更なる発展を遂げることが私共の使命であります。

他に類を見ない開拓の歴史を

に、「安心・安全のまちづくり」、「魅力と活力のあるまちづくり」、「自然と共生する持続可能なまちづくり」をめざし邁進する所存でありますので、今後とも更なるご声援をお願い申し上げます。

終わりに、皆様のご健勝と新十津川望郷会のご発展を心からご祈念申し上げごあいさつといたします。

六月の風が北の大地の草花を揺らす、爽やかな初夏を迎えました。新十津川望郷会の皆様におかれましては、ご健勝にてお過ごしのことと存じますとともに、日ごろより我がまち新十津川町の発展にご支援とご協力を賜り、衷心よりお礼申し上げます。

昨年、本町は、三年連続となる豊かな実りの秋を迎えることができました。

このことは、北海道有数の米产地である本町にとつて、大きな喜びと誇りであり、そして、高品質でおいしい米を作るという気概に満ち溢れた多くの生産者の皆様や関係団体の不斷の努力の賜物であると思うところであります。

本年におきましても、徳富川の清流で満たされた三、二〇〇haを

会報によせて



新十津川町議会議長

長谷川 秀樹

超す水田に植え付けられた水稻が、天候に恵まれ、生育が順調に推移し、秋にはおいしいお米を皆様にお届けできればと願うところでございます。

町議会では、昨年十月、道外視察研修を実施し、母村十津川村を訪問してきました。

平成二十二年の大雨被害から三年が過ぎていましたが、災害の跡は未だ多く残っており、美しい山並みに刻み込まれた傷跡に心を痛めた次第でございます。しかしながら、復興の動きは、日を追うごとに加速度的に進んでおり、その槌音は高く村内に響いていました。今回の訪問では、五百瀬から三浦峠へと続く熊野参詣道小辺路を歩き、快晴の三浦峠では、遙か先に伯母子峠が見ることができました。一二四年前にこの道を通り、北海道へ移住した先人たちが、何度も何度も十津川村を振り返り見たであろうことに思いを馳せた時、しみじみと故郷の大切さ、ありがたさを感じたところでございます。

先般、新聞等で大きく取り上げられましたが、地方においては今後約三十年間で、二十歳から三十

九歳の女性が大きく減少することが見込まれるというデータが発表されました。

依然として続く次代を担う若者

の大都市への流出は、本町においても大きな課題であり、地方分権の推進などと相まって、時代は大きな変革の時期を迎えております。

しかしながら、予想もつかないほどに変化をしていく世の中にあって我々は、故郷を守る者として、いつまでも変わらないもの、変え

てはならないものを守り、育てていくことの大切さを決して忘れず、どのような状況においても、将来を見つめ、前に進んでいかなければならぬと思うところでございま

す。

見上げれば、いつもそこにはビンネシリがあり、四季折々の美しい姿を私たちに見せてくれます。

そして、町民憲章では、先人た

めに、大都市への流出は、本町においても大きな課題であり、地方分権の推進などと相まって、時代は大きな変革の時期を迎えております。しかしながら、予想もつかないほどに変化をしていく世の中にあって我々は、故郷を守る者として、いつまでも変わらないもの、変え

てはならないものを守り、育てていくことの大切さを決して忘れず、どのような状況においても、将来を見つめ、前に進んでいかなければならぬと思うところでございま

す。

今後も、我々町に住む者はもとより、望郷会の会員の方々を始め、新十津川町を故郷と思ってくださる多くの方々にとって、大切な町であり続けるため、議会としてもまちづくりに取り組んで行く所存でございます。

望郷会の皆様におかれましては、これからも更なるご指導、ご鞭撻をくださいますようお願い申し上げますとともに、新十津川望郷会が益々発展されることと、会員の皆様の更なるご健勝、ご活躍を祈念いたしましてご挨拶いたします。

誕生（昭和二十三年）から滝川高校を卒業（昭和四十一年）迄の多感な少年期を過ごした新十津川町吉野です。

唱歌で歌われる歌詞のように、兎追いしかの山 小鮎釣りしかの川と自分の思い出は重なるようです。

冬は向かいの山に弟と兎を追つて巣穴に追い込みますが裏口から逃げられるので、難しく大根の葉をえさにワナをかけ捕まえたものです。

野鳥も古竿に糸を短くし、えさにトウキビを透明なセロテープを

巻き付け糸に立て誘い寄せ、トウシ（箱状の底が金網）を使い捕へ、テレビの空き箱で飼いました。アカゲラ、クマゲラは簡単に穴を開け逃げて行きます。

私の故郷



さつぽろ吉野会会長

植 松 美津夫

シジュウカラ、ゴジュウカラは可愛く綺麗です。

カケスは雑食（肉も食べ）大食です、また物真似（ねこの鳴き声）が上手。

スキーはカンダハ、スキーでワイヤー操作、通学路に、滑降、回転、ジャンプ、と何でも同じ板で滑ったものです。エッジの付いていないものが多く二冬で縁が削れて丸くなります。またワイヤーが切れ交換すると、後ろ部分（ゴム）の色が違い、恥ずかしい反面誇らしさを感じたものです。

春は紫色の花のカタクリが家の前、南斜面一帯に咲き、フキノトウ、セリ、ウド、ワラビと山菜の

息吹が感じられ、学校遠足はカイノ沢で桜見し、裏の川ではアカハラ、ヤマメが釣れ、田んぼの水取り口ではヤチウグイも釣れます。

田植えが始まるとき友達と手伝いに行きおやつの時間が楽しみでした。

運動会は留久、北幌加、南幌加、吉野、学園と順次行われ、特にプログラム最後の他校リレーは、小学校四百メートル、中学八百メートル（各四名）は、選手は勿論子供

から大人までが興奮、夢中で応援する姿が鮮明に思い出されます。

夏の暑い日は大半の子供たちは川遊び、吊り橋から飛び込み、泳ぎの練習。

私は放課後、野球の練習に明け暮れ六時終了後、一旦家に帰り、またグラウンドに戻り陸上競技(短距離、幅跳)の練習をしたもので

成果としてはリレーの選手、放送陸上に出たこと、野球は中体連に加盟していなかったため特にありません、高校では北空知の代表迄でした。当時練習中は一滴の水も飲めません。大会前日は風呂迄自制するようと言われ守つたものです。

今の若い人が聞いたら、きっとウソでしょと言うでしょう。

秋は庭にグスベリ、グミ、カリシズ、千両ナシ、川縁にはクワの実、山にクルミ、栗、ブドウ、コクワとおやつは自然の中に溢れています。

畑には西瓜、あじうり、トマトなど数えきれないほどの種類が作られていました。

稲刈り作業では請負制度があり田を持たない家庭も一家総出で暗

くなるまで手伝つたものです。

川でサクラマスが登り壮志、幌

加まで行けばヤマメの新子が釣れ、

留久ダム下ではフナ、鯉が釣れ、

ダムの放水後は三角網でドショウ、

ウゲイ、フナをすくい捕つたもの

です。

ドジョウは鶏鳥のえさに、他の

魚は焼いて干し、正月の昆布巻き

佃煮の材料になります。

読書の秋とよく言われますが、小学生は偉人の伝記、中学生は社会科で郷土、歴史、高校生は哲学書と読む量はそれぞれでしようが順番は決まつていたように思います。

先人が入植わずか一年(明治三十八年)で西徳富特別教育所を建て子供への教育を開始した事を聞いたときは驚きました、いかに教育の大切を思つていたことか。

学校、町の図書館利用などで本を読み破して貰いたいものです(私の希望)。

短い文面でしたが、四季を通しての私の故郷の思いを通しての私の故郷の思いを出です。

自分にとつて故郷とは心の安らぐ場所、遊びの場所、学びの場所、人格形成の場所です。

現在さっぽろ吉野会の会長を受け、新十津川望郷会会員になり、益々故郷への思いが強くなり、今まで育ててくれた故郷に感謝しか形にして表わせねばと思つています。



さっぽろ吉野会平成25年事業 さくらんぼ狩り
平成25年7月21日(日) 石狩市 斗内果樹園にて

《名刺を作りませんか!》

望郷会のPR事業の一環として、会員の勧誘や日頃のお仕事で新十津川町をPRしていただくため、町の風景や建物を入れたオリジナル台紙を活用し、望郷会会員の希望者の方に名刺をお作りします。

名刺は、1種類100枚単位とし、会の予算で作成しますので、ご希望の方は、事務局までお問い合わせください。

なお、予算に限りがありますので、ご希望に沿えない場合はご了承願います。

申込先 新十津川町役場 総務課総務グループ 新十津川望郷会事務局まで

電話 0125-76-2131 FAX 0125-76-2785

新十津川望郷会開町120年記念協賛事業

(平成25年度、小・中学校図書室整備助成事業報告)

(収入) 寄付金 個人 87人 242,000円 (残金40,085円は一般会計に充当)

(支出)

区分	品名	規格	数量	単価	金額	支払日	支払先
中学校	本	ボランティア情報館 新訂Aセット	2冊	6,800	13,600	6月25日	(株)図書館流通センター
		ボランティア情報館 新訂Gセット	4冊	6,800	27,200		
	小計				40,800		
	消費税				2,040		
	合計				42,840		
小学校	本	ふしぎなキャンディーやさん	1冊	9,500	9,500	6月25日	(株)図書館流通センター
		スイミー	1冊	9,800	9,800		
		科学のアルバム 植物編	18冊	1,500	27,000		
		科学のアルバム 天文・地学編	16冊	1,500	24,000		
		科学のアルバム 動物・鳥編	20冊	1,500	30,000		
		科学のアルバム 虫偏	19冊	1,500	28,500		
		かいかたそだてかたずかん	13冊セット		18,700		
		ニューワイド学研の図鑑 Eセット	2冊	2,000	4,000		
	小計				151,500		
	消費税				7,575		
	合計				159,075		
総額					201,915		

新十津川望郷会開町120年記念協賛事業決算

(平成22年度～平成25年度小・中学校図書室整備助成事業結果)

(収入) 寄付金 1,034,860円 会予算 170,774円 合計 1,205,634円

(支出) 1,205,634円

1 年度毎の内訳

単位：円

		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	計
支出	小学校	99,813	184,089	161,595	159,075	604,572
	中学校	225,120	233,289	99,813	42,840	601,062
	支出合計	324,933	417,378	261,408	201,915	1,205,634
収入	寄付金収入	350,000	225,000	217,860	242,000	1,034,860
	一般会計	25,067	▲ 192,378	▲ 43,548	40,085	▲ 170,774

☆寄付金収入過不足分は、一般会計より繰越、充当しました。

2 延べ購入備品

(1) 新十津川中学校 本 23冊

テーブル 4台

丸座卓 1台

椅子 16脚

プレート 21枚

(2) 新十津川小学校 本 257冊

バーコードラベル 56枚



訃
報



第五代

新十津川町長(前町長)

小畠莊一氏が死去

第五代新十津川町長 小畠莊一氏(七十二歳)が、平成二十六年二月十四日拡張型心筋症のためご逝去了ました。

故人は、昭和十六年十一月十五日雨竜郡妹背牛町でお生まれになり、昭和三十五年北海道立深川西高等学校を卒業後、新十津川町内の建設会社に就職され、昭和三十七年から平成三年都市計画課長時までの二十九年に亘り、町職員として奉職されました。その後、同年から平成十五年まで助役として三期十二年を歴任、平成十五年四月には請われて町長選挙に立候補、見事無投票当選となり、一期四年間町政の重責を担われました。この間、行財政改革に積極果敢に取り組み、福祉施設民営化や、指定管理者制度の導入、地域コミュニティの再編のため、三十年ぶりとなる行政区再編を実施しました。こうした輝かしいご功績により、今年三月十四日付で、特別叙勲旭日双光章を授与されました。

葬儀は、二月十六日、十七日の両日、砂川市空知セレモニーホールにて、多くの参列者のなか、しめやかに執り行われました。小畠氏の安らかなご冥福をお祈り申し上げます。

新十津川町トピックス

~まちの出来事~

平成25年5月11日 本への思いやり実感

新十津川小学校5、6年生6人が、1日図書館員の体験をしました。参加者は、本の貸し出しや返却など、図書館員の業務を体験し、最後には修了書を受け取りました。参加者の坂田晴香さんは、「本にブックカバーを付ける作業が大変だったけど、図書館の仕事が分かりました。」と話し、図書館員の本への思いやりを感じていました。



平成25年6月14日 地域で見守り



町は、新十津川郵便局と滝川郵便局との3者で「地域見守り活動に関する協定」を締結しました。高齢者等の世帯の玄関や郵便受けに新聞や郵便物が溜まった場合など、異変に気付いたときは、町へ通報する協力体制をつくりました。なお、町は、同じ内容の協定を6月6日に町内新聞販売店とも協定しています。

8月8日 卓球女子個人戦で快挙

8月2日から4日に行われた、卓球中体連全道大会女子個人戦で、後木玲奈さん（写真右）が5位、須藤未羽さん（写真左）が9位という成績を収め、全国大会への切符を手に入れました。8月17日から岐阜県で行われた全国大会では、接戦の末、惜しくも初戦敗退となりましたが、新中初めての全国大会出場という快挙を成し遂げました。

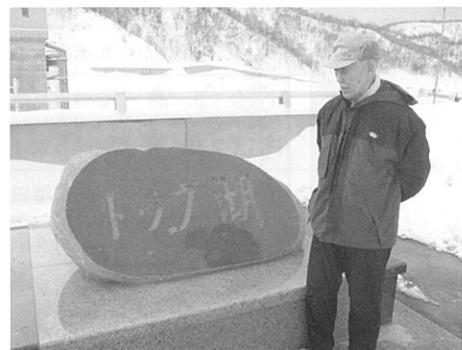


平成25年10月20日 パークゴルフ協会20周年

新十津川町パークゴルフ協会結成20周年記念式典・祝賀会が、改善センターで行われました。結成20周年を祝う会の吉田邦男会長は、式辞の中で「先駆者の努力と英知を引き継ぎ、パークゴルフを通して、これからも健康増進に努めます」と決意を新たに表明しました。

平成25年12月26日 トップ湖の石碑完成

徳富ダムに湖名（トップ湖）の石碑が建てられました。石碑は、湖底から搬出した花こう岩を加工し、大津渡さん（花月区）の揮毫により作成されました。大津さんはゆめりあ部会で長年にわたり書道の指導をしており、「石碑に揮毫するのは初めてで、大変よい思い出になります」と話していました。トップ湖を形成する徳富ダムは、平成26年4月1日より供用開始しております。



平成26年2月6日 大規模災害時に連携

町と陸上自衛隊滝川駐屯地は、大規模災害時に迅速に初動活動や復旧支援を行うための協定と、町が自衛隊員の留守家族への支援を行う協定を締結しました。植田町長が「災害時には被害を最小限に食い止めるようお願いします」とあいさつし、首藤滝川駐屯地司令は「協定を結ぶことで災害時の隊員の活動が円滑になるものと考えています」と話していました。

平成26年2月19日 リングプルが車いすに

新十津川中学校の生徒会が、特別養護老人ホームかおる園を訪れ、車いすを寄贈しました。寄贈した車いすは、新十津川中学校、明苑中学校、中富良野中学校の3校が集めたリングプルを交換したもので、新十津川中学校が代表して町内の福祉施設に寄贈することになりました。3校を代表して、新十津川中学校2年生の立野百華さんが、「ぜひ活用してください。これからも社会に貢献できる活動をしたいです」と車いすを入所者に手渡しました。



会員の皆様へ（お願い）

- ・会員数が病気や高齢などのため年々減少しています。会員の皆様には新規会員1名ご入会（ご紹介）を今年の目標とさせていただきますので、ご協力のほどよろしくお願ひします。
- ・新規望郷会員のご入会を募るため、小・中学校などの同窓会が開催されるときは、事務局まで、ご連絡をお願い申し上げます。（望郷会新規会員募集のチラシを送付させていただきます）

新十津川望郷会役員

任期期間 平成26年6月20日～平成28年6月19日

(敬称略)

役職名	氏名	住所	電話番号	備考
顧問	植田満			町長
	長谷川秀樹			町議会議長
会長	高棹政義			
副会長	谷口次雄			道東
	中川昭五			道南
	川合正修			道北
	中井唯夫			道央
	和平康伸			札幌中央会会长・札幌郷友会会长
理事	杉村修			深川支部支部長
	玉堀光夫			
	西井勝明			滝川支部副支部長
	中川芳継			札幌花月会会长
	松倉幹男			徳富会会长
	岡田功			札幌郷友会事務局長
監査	村上新一			砂川支部支部長
事務局長	佐川純			副町長
事務局次長	熊田義信			教育長
	藤澤敦司			総務課長

編集後記

新十津川望郷会会報第十七号を発刊するにあたり、役員並びに会員の皆様にはご投稿賜り、心からお礼申し上げます。来年の十八号の発行に際しましても多くのご投稿をお待ちしております。

（投稿される方には、原稿用紙を送付させていただきますので、事務局までお電話等でご連絡くださいますようお願い申し上げます。）

新十津川望郷会会報
第十七号

平成二十六年六月二十日発行

新十津川望郷会

〒〇七三一一〇三

新十津川町字中央三〇一一番地一

新十津川町役場内

事務局長（新十津川町副町長）

佐川純

印刷

広小路印刷株式会社
☎一二五—七六一—二二三一